

# 令和7年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和7年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	113	52	41	7.1	14.5	学校	476
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	110	63.8	50.7	53.1	45.0	50.6	6.5	6.3	12.0	10.5	8.0
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	94	61.6	45.8	44.9	39.7	42.9	7.5	5.3	14.6	6.3	11.4
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	97	61.7	61.9	56.2	65.7	66.0	9.3	4.7	5.9	6.3	3.0
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.6	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	112	113.4	111.1	135.7	94.1
10月22日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点	
												(kg)
2年 男子	学校	87	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	409.25	8.00	197.51	20.74	42.20
	大阪市	—	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	—	32.45	26.13	55.45	57.40	74.98	—	8.07	206.30	23.30	46.57
2年 女子	学校	—	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	309.66	8.97	166.44	12.43	47.58
	大阪市	—	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	318.64	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	—	25.07	19.00	50.62	48.42	49.00	—	9.38	172.61	11.85	48.25

令和7年度 桃谷中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

<国語>

平均正答率は52%で、大阪市平均と同じであった。中でも、「書くこと」と「読むこと」の2つの領域で大阪市平均を上回っている。

<数学>

平均正答率は41%で、大阪市平均よりも5ポイント下回った。無回答率も3.3ポイント高く、領域別では特に「関数」において正答率が9.4ポイント低かった。

<理科>

平均IRTスコアは476で、大阪市平均と比較して13ポイント下回った。IRTバンドの割合も全体的に下がっている。

【今後に向けて】

<国語>

朝学習でのデジタル新聞を活用した取り組みや、新聞記事の書き写し等の取り組みの成果が出ており、書くこと、読むことの力は伸びている。今後はさらに読解力・文章構成力を伸ばす取り組みを進めたい。

<数学>

角度を求めることや確率を求めることはできているが、問いに対する説明や証明することがまだまだできていない。言語活動をととして基礎的な知識・技能の向上はもちろん、理解すること・表現することができるようになることと、粘り強く問題に取り組む姿勢を育てていきたい。

<理科>

どの領域でも基礎的な知識・技能の定着が低いので、まずは、基礎的な内容の復習と習熟度の向上を目指す。思考・判断・表現領域は、実験結果を適切にこたえるなど、授業で取り組んでいる成果が見られる。今後も、実験等通じて表現力・考察力に磨きをかけていきたい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

【成果】

<国語>

平均点は大阪府(64.2点)と比較して0.4点下回り63.8点となった。学習指導要領の内容における結果は「我が国の言語文化に関する事項」と「読むこと」で大阪府平均を上回ったが、それ以外の領域ではわずかに下回る結果であった。評価の観点では、「思考・判断・表現」で大阪府を0.2点上回った。また、無回答率は大阪府(6.8%)に対して6.5%と下回ることができた。

<社会>

平均点は大阪府(51.2点)と比較して0.5点下回り50.7点となった。学習指導要領の領域の地理的分野、評価の観点の「思考・判断・表現」、問題形式の選択式の項目において大阪府の平均点を上回ることができた。また、無回答率は大阪府(6.5%)に対して6.3%と下回ることができた。

<数学>

平均点は大阪府(53.9点)と比較して53.1点となり、0.8点下回った。対府比は0.985となり1年時の0.932、2年時の0.942と比較して大きく向上した。また、1学期に実施した全国学力・学習状況調査結果において、全国平均より5ポイント低かったことを鑑みると、徐々に学力が向上していることが認められる。学習指導要領の領域の「関数」、評価の観点の「思考・判断・表現」の項目において大阪府の平均点を上回ることができた。また、無回答率は大阪府(12.1%)に対して12.0%と下回ることができた。

<理科>

平均点は大阪府(46.0点)と比較して1点下回り、45.0点であった。学習指導要領の領域における数値は「生命」で上回ったものの、他はいずれも0.6点下回った。評価の観点の領域もどちらも大阪府平均を下回った。問題形式別では「選択式」で0.4点上回ったが、他の2つは下回り特に「短答式」で1.2点下回った。また、無回答率は大阪府(11.0%)に対して10.5%と下回ることができた。

<英語>

平均点は大阪府(53.2点)と比較して50.6点となり2.6点下回った。対府比は、1年0.944、2年0.957、3年0.951となり、3年間で見ればわずかに上昇している。学習指導要領の領域の「読むこと」で0.2点、問題形式別の「短答式」で0.1点大阪府平均を上回ることができた。また、無回答率は大阪府(7.4%)に対して8.0%と下回ることができなかった。

【課題】

<国語>

漢字の読み書きにおいて、ほとんどの問題で正答率がやや低い傾向にある。また、対話文の空欄に入る内容を、前後の文脈に合わせて数値を用いて説明することが苦手な生徒が多い。話し言葉と書き言葉の使い分けが十分にできていない傾向も見られる。

<社会>

知識・技能が平均より0.9%下回っている点、短答式の平均点が大阪府に比べ0.8%低い点から、「学習内容を正しく理解して、知識を定着できていないこと」が課題である。

<数学>

「数と式」「データの活用」の2単元で府市の平均を下回っている。「数と式」に関しては計算力が少し低い傾向があるため、基本の計算力を身に付けさせる必要がある。「データの活用」の関しては、図や表の読み取りを普段から定着させていきたい。

<理科>

知識・技能が平均より0.8点下回っていることから、基本的な知識が身につけていないことが読み取れる。「生命」の分野以外で平均を下回っているため、分野別での対応も必要である。

<英語>

「読むこと」の領域が府平均よりも0.2ポイント上回ったのは、帯活動による「読みトレ100」の取り組みが影響したことが考えられる。引き続き取り組みたい。反対に「書くこと」のポイントが府平均より2.5低く、授業での取り組みを増加する必要がある。

【今後に向けて】

<国語>

漢字学習の習慣をより強化するとともに、授業で教科書を音読する機会を設けたり、漢字の仕組みや構成について理解を深めたりする必要である。初見の熟語でも漢字の意味や前後の文脈から読み方や意味を推測できる力をつけさせることが課題である。

<社会>

知識定着のために歴史・地理の基本的な語句の復習を行うこと、小テストなどによる確認の時間を設けていく。また、時事問題に触れる機会を増やし、学習内容を身近に捉える取り組みをしていく必要がある。

<数学>

前項目を達成するためには、常日頃から学習に対する方法を指導する必要がある。効率度外視で勉強量に重きを置いている生徒が数十名おり、勉強量と成績が比例しない。基礎的な数学力を定着するために、繰り返し演習を行ったり、粘り強く数学に取り組む態度を養っていく必要がある。

<理科>

知識の定着を図るために、問題演習の時間を設ける必要がある。実験を多く取り入れているがそのアウトプットを行うような問題演習の時間を取り、知識の定着を図っていく必要がある。

<英語>

記述式問題の配点が30点満点であるが、10.0ポイントの結果がでた。普段、発表の原稿を書かせたり、自分の意見を書かせたりする授業はおこなってきたが、教科書や補助教材の例文を参考に書かせることが多かったため、自力で書くことが苦手な生徒が多い。今後は、問題を多く解かせ、基本の文法や語彙を用いて書くことに慣れさせていく必要がある。

令和7年度 桃谷中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

【成果】1年生

<国語>平均正答率は61.7%で大阪府と比較して、1.4ポイント低かった。観点別では大阪府と比較して「知識・技能」では1.4ポイント下回り、「思考・判断・表現」では0.1ポイント下回った。  
<社会>平均正答率は61.9%で、大阪市と比較して、3.6ポイント上回った。観点別では、大阪市と比較して「知識・技能」において4.8ポイント上回り、「思考・判断・表現」において0.4ポイント下回った。  
<数学>平均正答率が56.2%で、大阪府と比較して0.5ポイント低かった。観点別では、大阪府と比較して、「知識・技能」において0.7ポイント下回り、「思考・判断・表現」において0.3ポイント上回った。  
<理科>領域「生命」の区分では、4ポイント下回ったが、それ以外においては平均を上回っている。平均正答率は大阪市と較べて2.7ポイント上回った。観点別では、「思考・判断・表現」において5.2ポイント上回り、基礎活用の活用区分では10.7ポイント上回った。  
<英語>平均正答率は大阪府と比較して、0.8ポイント上回った。設問別に分析すると、「聞くこと」と「書くこと」の項目で不平均を上回っているが「読むこと」の項目では府平均と同じである。短答式の問題のみ府平均を0.1ポイント下回っている。

【課題】1年生

<国語>「知識及び技能」の領域の「文脈に即して漢字を正しく書く」で正答率が平均で11%、「書くこと」の「文章の構成や展開、表現などを意識して報告文を書く」で正答率が6%、「読むこと」の「主語として適しているものを選択する」で正答率が8.6%下回っている。このことから、漢字の知識と文章や情報を正確に読み取ることが課題である。  
<社会>記述の解答形式の平均正答率が大阪市の平均正答率に対して0.4ポイント下回っていた。記述で自分の意見を書くことができるための知識の定着が必要である。  
<数学>領域「数と式」において、正答率は1.7ポイント上回っているが、「関数」・「図形」の領域では正答率は2.5ポイント下回っていた。関数・図形に対する理解を深め、利用できる必要がある。  
<理科>無回答率が6.3%と大阪市平均の3.6より大幅に多いので、無回答を減らすことが課題である。また、領域「生命」においては知識・技能も高めていくことが課題である。  
<英語>リスニング問題の質問を読みながら適切な英語を書く問題では、3.9ポイント下回っている。聞く、読む、書くの3パターンを同時に行うことに慣れさせる必要がある。また、すべての技能をより向上させる必要がある。読み取り問題では、2つのEメール読み内容に合うものを選ぶ問題では6ポイントも低かった。情報量が多いものを正確に読み取る力をつける必要がある。

【今後に向けて】1年生

<国語>資料から正確な情報を読みとるために、定期的に資料を活用していきたい。また、自分の考えを書き、伝える場面も確保していきたい。  
<社会>普段から自分の意見を書く練習をしているので、定期テストなどで論述の問題に慣れ、論述問題に答えることができるための知識の定着が必要である。  
<数学>「数と式」に関する設問は、反復して取り組んでいる成果が出ている。関数や図形に関しては、苦手意識がみられる。今後は、基礎知識の定着、知識を利用し問題に取り組むことができるように振り返りをしていく必要がある。また、個々の到達度により基礎・標準・発展の三段階に問題を設定し、意欲的に取り組む振り返りプリントを作成していく。  
<理科>生徒自らが問題を読み込み、知識を正確に定着させられるような授業展開が必要である。また、小テストや宿題などを有効に活用して、生徒自らが工夫してノートを作成するようにすることで、基礎学力の定着をはかる。  
<英語>リスニングでは、多岐にわたって問題に触れさせていきたい。また、基本的な単語や文法項目の習得が必要である。そのために、単語テストや文法項目の反復学習を行い、基礎基本の定着をはかっていく。

【成果】2年生

<国語>平均正答率は大阪府(64.5点)と比較して、3.1点下回る61.6点であった。学習指導要領の内容における結果は「情報の扱い方に関する事項」「話すこと聞くこと」で府と同等の数値であったが、その他はマイナス0.2点からマイナス1.8点と下回る結果となった。最も差が大きかった項目は「読むこと」であった。  
<社会>平均正答率は大阪府(44.3点)と比較して、1.5点上回る45.8点であった。評価の観点では「知識・技能」で大阪府より1.3ポイント上回り、「思考・判断・表現」において0.2ポイント上回った。  
<数学>平均正答率が44.9%で、大阪府と比較して10.1ポイント低かった。観点別では、大阪府と比較して、「知識・技能」において6.5ポイント下回り、「思考・判断・表現」において3.6ポイント下回った。  
<理科>平均正答率は大阪府(47.2点)と比較して、7.0点下回る39.7点であった。前年度実施の大阪市チャレンジテストplusにおいて3.8ポイント下回っていた。  
<英語>平均正答率は大阪府(51.8点)と比較して、8.9点下回る42.9点であった。昨年度の5.9点よりもさらに差が広がった。特に「書くこと」で5.2ポイント、「知識・技能」で6.5ポイントで大きく下回った。

【課題】2年生

<国語>課題としては、「電子メールの下書きをもとにしてポスターの下書きに書き換える内容を書く」「スピーチに下書きに関するアドバイスを書く」に対する無答率の高さが挙げられる。日常的に自分で間違いを探し、書き直す、またはアドバイスを書くという取り組みを行う必要がある。  
<社会>課題としては、歴史的分野においては平均を2.5ポイントを上回っていたのに対し、地理的分野では1.0ポイント下回る結果となった。歴史の基礎学力の定着がみられた一方、地理分野の基礎学力と資料から読み解く読解力が課題である。また問題形式別平均点の「記述」において大阪府の平均の0.1ポイントのみ上回った結果となり、記述力の向上も必要である。  
<数学>領域「数と式」において、正答率は5.1ポイント下回っている。数字、文字に関する四則計算が弱いため、知識・技能を高めることが課題である。  
<理科>課題としては、すべての問題形式において、大阪府平均を下回るため、基礎的な反復練習と思考力を伸ばす取り組みの必要がある。  
<英語>平均正答率は大阪府と比較して、8.9ポイント低かった。設問別に分析すると、「聞くこと」「読むこと」の項目よりも、「書くこと」の項目のポイントが低かった。これは、基本的な単語や文法項目を反復して習得していないことを意味する。学習習慣の確立や、基本的な単語や文法項目の習得が必要である。

【今後に向けて】2年生

<国語>基礎的な学習のみならず、応用として様々な実践に取り組む。その中で、電子メールやスピーチなども考えさせ、無回答が減少するよう、繋げていきたい。  
<社会>小テストなどを実施して日ごろから学習する習慣を身に着けさせるとともに資料読み取りや読み取った情報を文章にして書くような授業展開に取り組んでいきたい。  
<数学>個別指導や問題演習をすることで低学力層の強化が必要である。基本的な式の計算のルールを定着させ、底上げを図りたい。  
<理科>毎時間行っていた基礎的な反復練習はもとより、記述式の問題演習を行い、思考的な問題に取り組んでいきたい。  
<英語>引き続き、基本的な単語や文法項目の習得、学習習慣の確立が必要である。そのために、単語テストや文法項目の反復学習を行い、基礎基本の定着をはかっていく。

令和7年度 桃谷中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○大阪市英語力調査(GTEC)

【成果】CEFRA1レベル相当の割合が53.6%(前年度51.6%)であった。少しだが前年度より上回る結果となった。WPMの値が昨年度より4.2ポイント上昇しており、そのためリーディングの得点は他の3技能より高く、2年次から帯活動で取り組んでいる読みトレ100をおこなった成果であると思われる。

【課題】スピーキングテストにおいては他の領域よりポイントが低くなった。

【今後に向けて】C-NETの活用や、ペアワークでの会話の練習、プレゼンテーションの取り組みを引き続きおこない、英語を発話する機会を多くとる必要がある。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【成果】

体力テストの8種目を全国・大阪市と比較して、男子は5種目女子は4種目を合計点が上回った。

総合点は男子は46.57(全国42.20、大阪市41.69)、女子は48.25(全国47.58、大阪市48.14)と男女ともに全国・大阪市の平均を上回った。

【課題】

男女ともにシャトルランと上体おこしの記録は僅かながら全国平均を下回り、男子では50M走、女子では50M走とハンドボール投げも下回った。

運動習慣調査の「運動が好き」という項目の「好き」の回答において、本校の平均(男子:83.6、女子:54.3)が、全国・大阪市の平均(男子:全国66.4大阪市65.1、女子:全国43.0大阪市42.5)を大幅に上回った上に、「やや嫌い」「嫌い」の回答も男女ともに下回った。

【今後に向けて】

運動に関して肯定的な回答が向上できたので、今後もよりわかりやすい授業・取り組みやすい授業の工夫を行い、運動が好きな生徒を増やし、身体能力向上にもつなげていきたい。

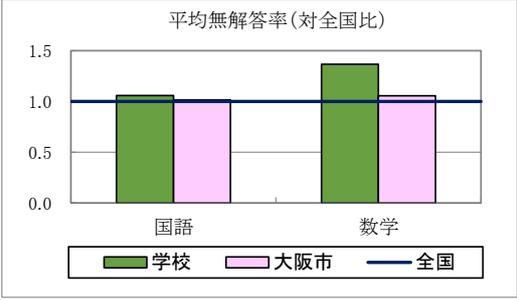
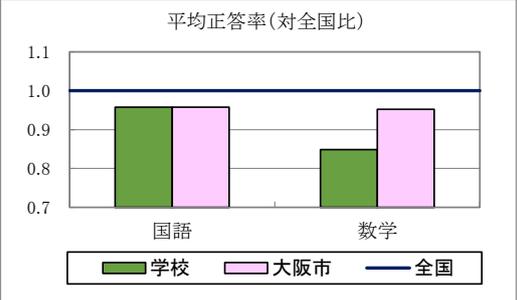
**令和7年度 桃谷中学校のあゆみ**  
**—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

**全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より**

**【 全 体 】**

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	52	41
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

平均無解答率(%)	
国語	数学
7.1	14.5
6.8	11.2
6.7	10.6

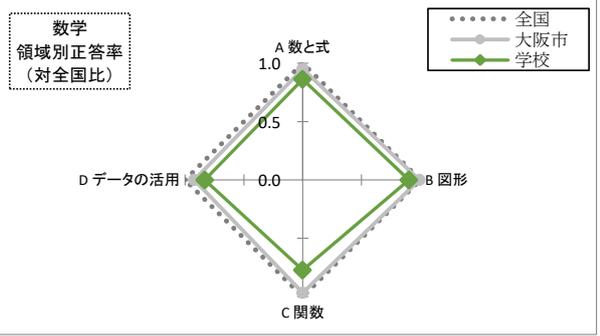
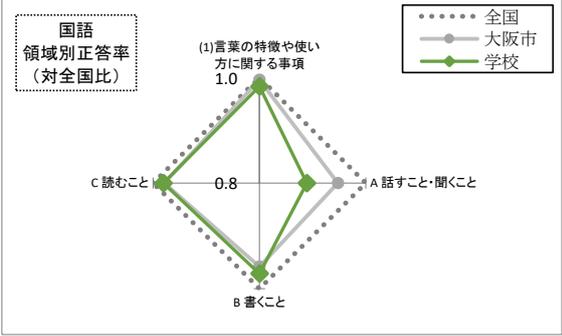
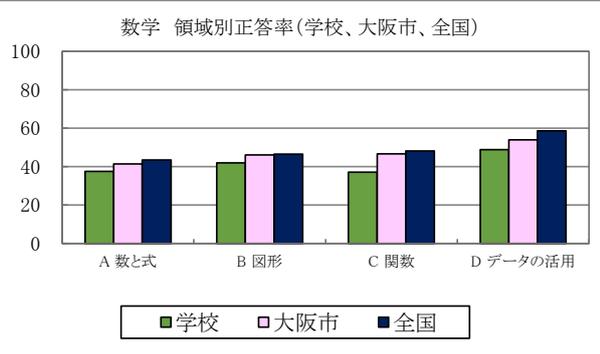
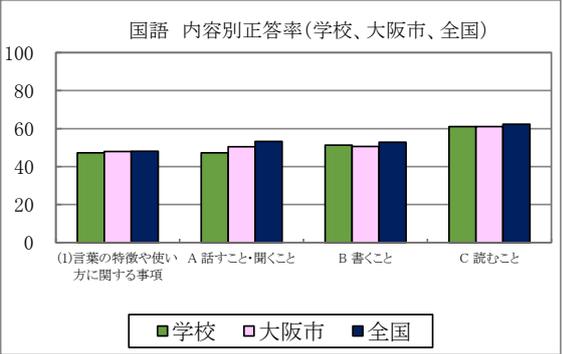


**【 国 語 】**

**【 数 学 】**

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	47.3	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	47.3	50.4	53.2
B 書くこと	5	51.3	50.6	52.8
C 読むこと	3	61.1	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	37.5	41.4	43.5
B 図形	4	42.0	46.1	46.5
C 関数	3	37.2	46.6	48.2
D データの活用	3	48.8	54.0	58.6

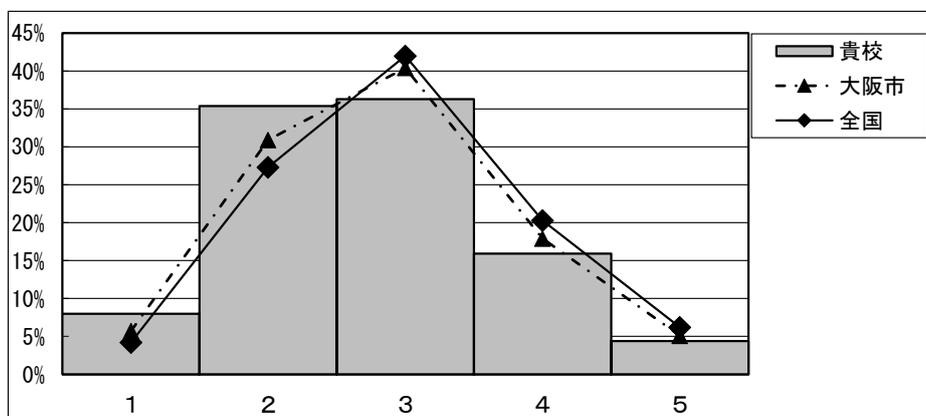
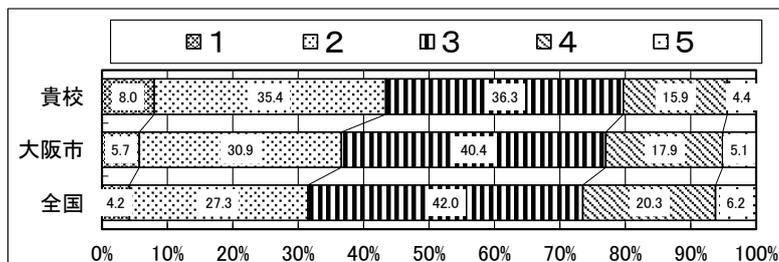


令和7年度 桃谷中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	476
大阪市	489
全国	503



# 令和7年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

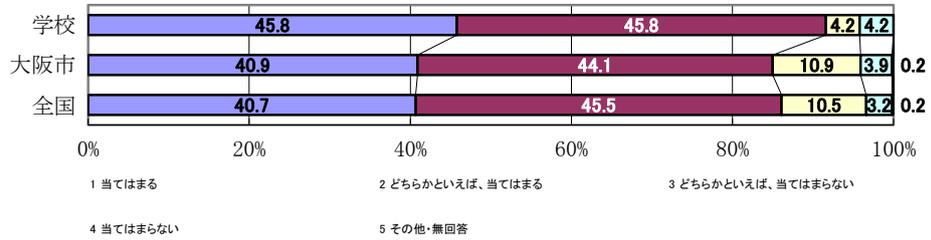
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

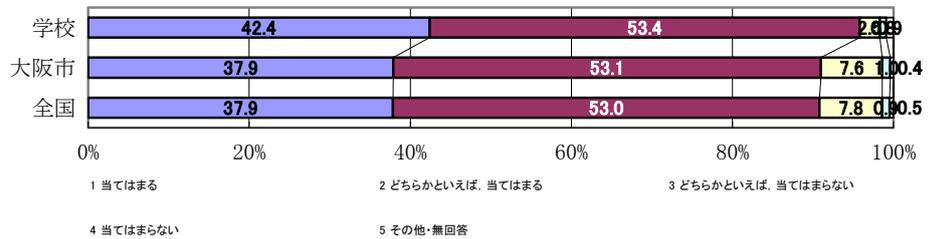
5

自分には、よいところがあると思いますか



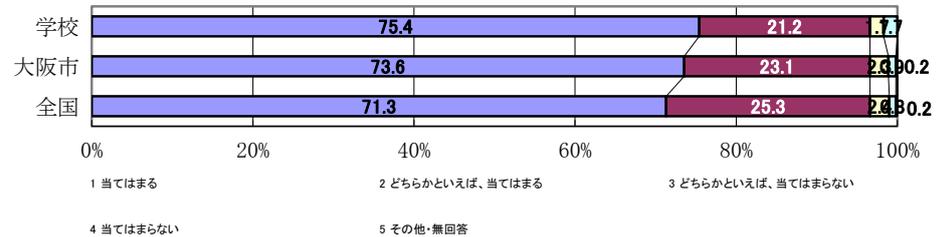
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



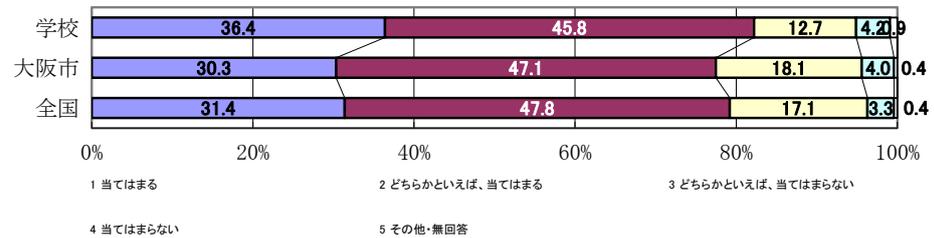
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



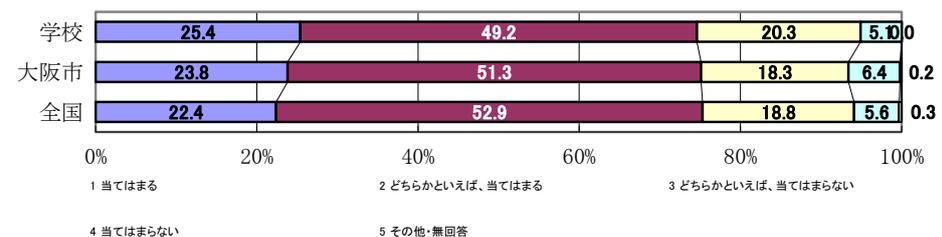
13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



# 令和7年度 桃谷中学校のあゆみ

## —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

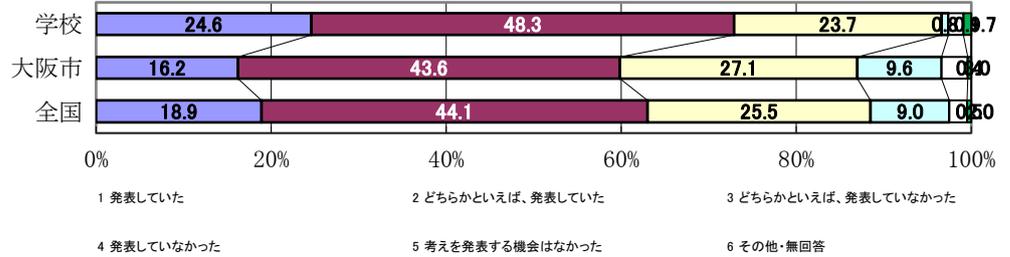
### 生徒質問より

□ 1   □ 2   □ 3   □ 4   □ 5   □ 6   □ 7   □ 8

質問番号  
質問事項

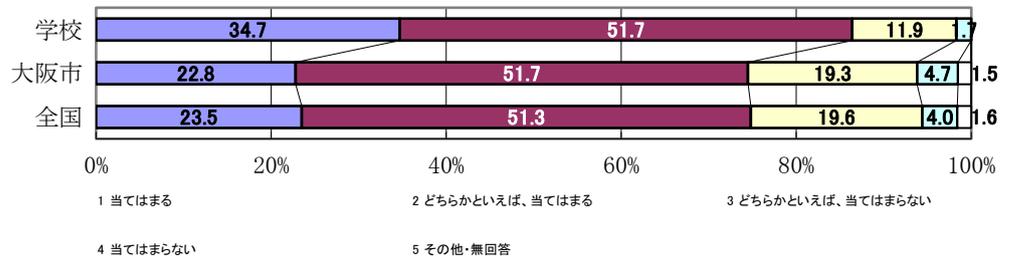
31

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



37

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか



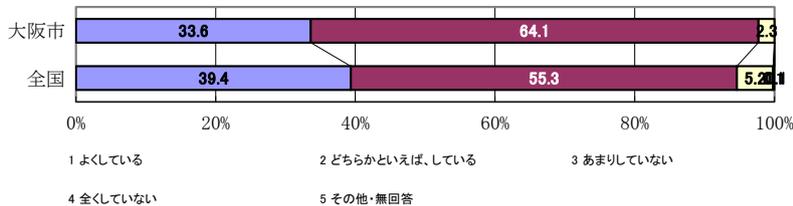
# 令和7年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問より



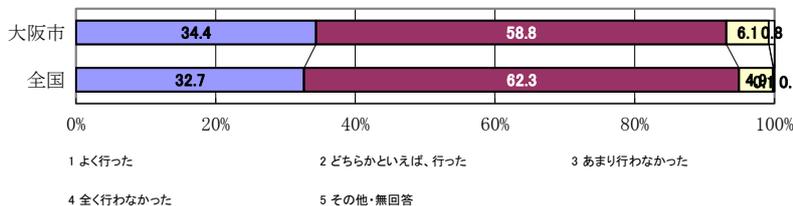
質問番号
質問事項
17
言語活動について、国語科を要として、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

学校 「よくしている」を選択



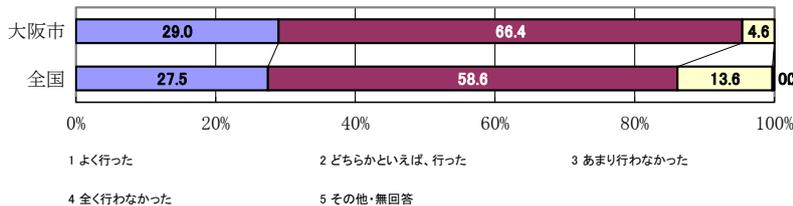
質問番号
質問事項
31
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「よく行った」を選択



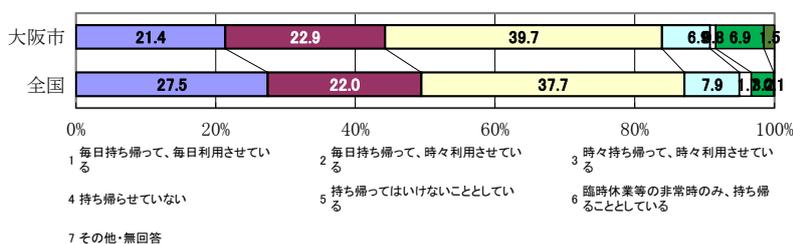
質問番号
質問事項
32
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「よく行った」を選択



質問番号
質問事項
66
生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「毎日持ち帰って、時々利用させている」を選択



質問番号
質問事項
76
地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

学校 「よく行った」を選択

